

# 地域おこし協力隊

安芸高田市で、夢を抱いて様々な活動に取り組み挑戦者たち。彼ら突き動かす原動力とその熱い想いに迫ります。



住宅政策課

内田 峻典さん

## 自分自身が感じている

## 市の魅力を伝えていきたい

感情があまり表に出ません



**好きな場所**  
家の近所にある「平佐八幡神社」。甲田町を見渡せるこの場所がお気に入り

**宝物**  
自然豊かな町でのびのびと育っている9か月の息子さん。ご近所でもアイドル的な存在です

**地域活動**  
消防団のほか、地元の演劇グループ「五龍甲太郎一座」にも参加。安芸高田ライブを満喫中

空き家が負担になっている人とそこに住みたい人の懸け橋に

地域おこし協力隊として4月で3年目を迎える内田さん。住宅政策課で空き家バンクを担当しています。訪れる人の相談に親身になって答える姿は、すっかり安芸高田市民ですが、大阪府豊中市の出身。大阪で旅行会社に務めている時、総務省のホームページでふと見かけた「地域おこし協力隊」に興味をそられました。「会社務めの場合、どうしても会社の意向に沿いながら決められた仕事をするのが一般的。自分の考えや想いを反映できる仕事がないと日々思っていました。地域おこし協力隊は、職業としては新しい分野。自分の力を試してみたいと思ったんです」。全国各地で募集がある中、内田さんは自然と都会のバランスが良い安芸高田市に注目。母方の祖母が広島県出身ということもあり、縁を感じて移り住みました。9ヶ月の息子さんを持つお父さんでもあり、「子育て環境も抜群で、地域の人も温かい」と顔をほころばせます。登録された空き家とそこを利用したい人とを結ぶ空き家バンク。内田さんが担当してから、約48件が成立しました。「空き家に新しい住人が決まった時が最も嬉しい瞬間。今後は、移り住んできた人が地域に馴染むサポートができたらいなと思っています」。自身も安芸高田市に魅力を感じ、ずっと住み続けたいと感じている一人。空き家バンクの利用を検討している方々に、これからもその想いを伝え続けます。

平成29年度はその取組をさらに一歩進め、高齢者など日常生活に支援が必要な人や、そうなる恐れがある人のライフスタイルを把握し、必要な支援や情報を適切に提供できる仕組みの構築を検討しております。慣れ親しんだ地域で安心して住み続けることができる「市民に安全・安心」を与える施策を実施してまいります。



(3) 高齢化対策、安全・安心の確保  
「市民の安全・安心を創る投資」  
本市のもうひとつの課題は、急速な高齢化の進行です。人口減と高齢化が同時に進む状況下では、地域の互助機能や家庭での介護力が低下してまいります。この課題については、これまでも市民総ヘルパー構想のもと、新たな互助・共助のかたちを創り、一定の成果を挙げてまいりました。



(4) 持続的な財政運営の実施  
「受益者負担の適正化」  
一方で、冒頭申し上げたとおり、本市の主要な財源である普通交付税の合併特例加算措置の段階的減額が始まっており、行財政運営はますます厳しいものとなっております。また、公共施設やインフラ施設の新設のための財源を確保する必要もあります。その上で「人口減対策」に取り組んでいくためには、更なる行財政改革を推進していかなくてはなりません。今後の持続的な財政運営のためには、使用料の見直しなどの受益者負担の適正化、公共施設の統廃合など、市民のみなさまに対して多大な影響のあるものについても踏み込んで

進めていかなければなりません。丁寧にご説明をし、ご理解をいただきながら進めてまいりたいと考えております。

**目標人口達成のための体制整備**  
冒頭に申し上げましたとおり、平成29年度は、平成36年の目標人口27,500人の達成に向けた具体的なステップを描く、重要な年です。ポイントとなる事業を着実に実行するため4月1日付けで組織機構の見直しをすることとしております。大きくは次の3点です。  
1点目は、庁内の複数部局にまたがる人口減対策や定住促進対策に係る事業を総括する部門として、企画振興部内に「地方創生推進課」を新設します。  
2点目は、各地域に配置する生活支援員により新たな自助・共助の形を創り出す部門として、福祉保健部の課の改編とあわせて「健康長寿課高齢者生活支援係」とし、総務部などとの連携の下、新たな制度を構築してまいります。  
3点目は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに関連し、安芸高田市らしい取組、とりわけ文



平成29年度は、財政上の厳しい環境の下、行財政改革を確実に進めつつ、「市の未来を創る投資」、「市民の安全・安心を創る投資」、「市民の元氣と活力を与える投資」についてももしっかりと行い、市民自らが全国に誇れる「住み続けたいまち 安芸高田市」を創ることを施政方針とします。

化芸部門で神楽を中心とした展開を模索するため、産業振興部商工観光課に対応窓口を一元化し、取組を進めてまいります。